

## 理事長の挨拶

## 新年のご挨拶

岡野 栄之

一般社団法人・日本神経化学会・理事長

皆さま明けましておめでとうございます。2023年が皆さまにとって良き年でありますように心から祈っております。

2022年は、国際的には、ウクライナ戦争の勃発を始め、東アジアにおける地政学的な緊張など、国内では円安と物価上昇など1年前は予想もしていないような厳しい状況が起こり始めました。これらは長期化する可能性も高く、世界中の人々へ様々な影響を及ぼしております。私は、このような厳しい状況下でも、平常心を保ち、しっかりと学問と人材育成をすることが重要であると思い、それを意識した学会運営を行って参りました。2022年7月には、3年ぶりの3学会合同のNeuro2022を沖縄で行い、大成功を収めました。魅力的な沖縄という開催地で、久しぶりのFace-to-Faceでの再会を果たし、学会での発表・議論や若手道場での交流を大いに楽しむことができました。大会長の竹居光太郎先生、本当にご苦労さまでした！ 2022年7月8日には、慶應義塾大学三田キャンパスにて、このNeuro2022のサテライト・シンポジウムとして、文部科学省ライフサイエンス課の武田課長をお招きしまして、田中謙二先生と林(高木)朗子先生の主導により、本学会が取り組む所謂Flagship Projectを紹介する企画をおこないました。精神・神経疾患克服に向けて、本学会が誇る幅広い学問分野の力を有機的・学際的・戦略的に結集する必要があることを、改めて確認することができ

ました。Flagship Projectを核として、本学会の強みを活かした研究が益々の発展を遂げることを期待したいと考えます。

また、2022年8月末～9月初頭には、和中明生先生、味岡逸樹先生のご尽力により、ISN2022がホノルルで開催されました。これは、本来、京都で開催されるはずの学術集会でしたが、COVID-19パンデミックに伴う入国制限の問題で、急遽開催地がホノルルとなったのですが、さしたる混乱もなく、秀逸なプログラムであったためか、アカデミックにレベルの高い学術集会でありました。一点課題を申し上げるとすれば、ISNへは、もっと日本からの若い研究者の参加が増えることを期待しております。若手道場等で鍛えてきたパワーを国際的な舞台で炸裂させて、日本のVisibilityを高めていただきたいと思います。

最後にご報告となりますが、皆様のご高配により、私はこの2023年1月より、日本脳科学関連学会連合の副代表を務めることになりました。今後も日本神経化学会と我が国の脳科学のアカデミック・コミュニティの発展のため、頑張っていく所存でありますので、皆様ご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。また、この3月で岡野理事長、竹居副理事長の体制は期間満了となります。あっという間の2年でしたが、皆様には、本当にお世話になり、有難うございました。